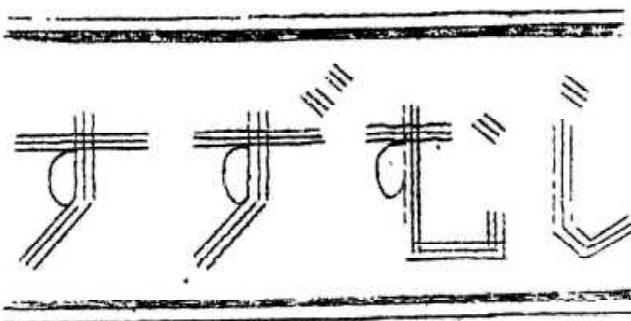
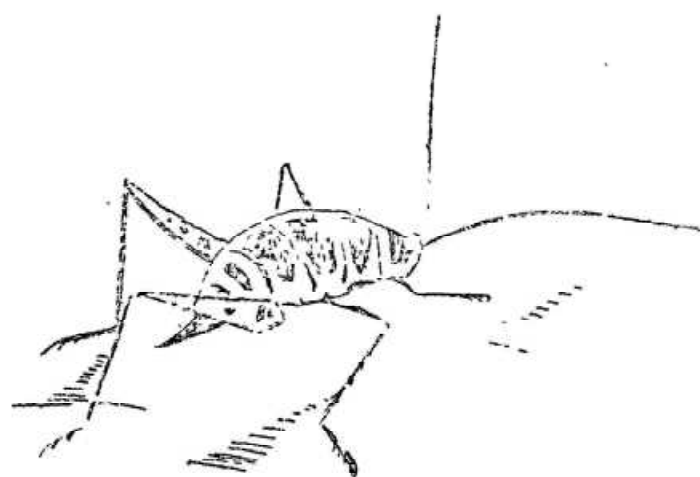




Vol. 2 No. 12



1952年12月

倉敷昆虫同好会

・金山附近の注目すべき蝶類	広瀬 義躬	1
・足島半島タコラ山附近採集調査 記録(1952年度)	編集 部	3
・本年のオサムシの記録	友堅 良一	5
・土壁に於けるキゴシシガバネの越冬	能勢 房子 能勢登美子	6
・1952年の会回顧	小堅 洋	7
おとしぶみ		
・タコラ山にナ=フトンボ	小堅 洋	9
・キベリハムシの新産地	松井 俊公	9
・岡山県下に於けるラミーカミキリ の産地	広瀬 義躬	9
・本年標原附近にアサギアサギアサギ に就いて	西村 公夫	10
・アサギアサギカミキリ	松井 俊公	11
・足島半島タコラ山より記録する ミドリシジミ	広瀬 義躬	11
・ヒカデチヨウの燈火飛来について	井手十代子	11
・イカリモミガの訪花	松井 俊公	12
・チヨウの訪花ニ関し	小堅 洋	12
・ウラキンシジミの越冬について	西村 公夫	12
・ミヤマアサギハネヒコリノアサギ について	西村 公夫	12
・ぶどう島のこがね虫	清々 慶子	12
・虫屋冬の課題	松 虫 生	
・本会寄贈同好会誌紹介		14
訂正		15
・新入会員、会だより 会員諸氏に御願		
編集後記		16

金山附近の注目すべき蝶類

広瀬 義男

岡山市(旧牧石村)金山(海拔439m)附近の昆虫相は最近本会会員の数種に亘る採集調査によつてその一部が明るみに出され、注目すべきものも多数発見された。蝶類に於いても山地性の注目すべき種が少なくなく、その一部は既に本誌Vol.2 No.11に記したが、ここに他の数種をも合せて記録して置きたい。本文を記すに當つて、御教示いただいた吉堅孝昭、小堅洋、の両氏に厚く御礼申す上げる。

1 *Coreana ibara* (Butler) ウラキンシジミ

本種が金山に産することは以前から聞いていたが、これはかつて奥谷禎一氏が「採集と飼育」Vol.9 No.8/9に記されたものが最初であるらしく、今その記事の一部を参考道に紹介すると——「同村(註、牧石村)には岡山近傍では最高の金山があり、その附近のクヌギやナラの林の中に他の本屋(註、ミドリシジミ族を指す)のものと混じて産し、その数はあまり少くなくないようである。著者は高校の空友伊藤孝昭氏の案内にて昭和15年6月9日に採集を行ったのであるが、同日海拔130m内外のところで、約10頭を見かけたが、内3頭を共同戦線にて得た。又、同氏によれば、金山山頂近一帯に産する由であり、氏は前年6月に採集した1標本を所蔵している。云々」とありかなり普通なものらしく記されているが、昨年(1951)の6月17日に行われた採集では、時期が少しおそかったため採集出来ず、同行の故白神昭氏がそれらしいものを1頭自撃されたに過ぎない。来年の採集には是非再確認したいものである。

又本山の如き低地(海拔500m以下)の記録は、神戸鷹取山麓及び大阪等国等2、3の地と数えるに過ぎず、通常本州以南では山地に発生するもので、この点特に注目すべき記録である。新昆虫Vol.3 No.5の「全国採集地案内」に記された「金山のウラキンシジミ」も多分奥谷氏の記録の引用であろう。

2 *Artopoeles pryori pryori* MURRAY ウラゴマダラシジミ

本種は昨年(1951)6月17日の採集行で得られたもので、先に山頂附近に於いて横上池田飛翔を行っている本種らしき1頭を故白神昭氏が図撃され、後下山の途中本会会員岡本和敬君によつて本種1頭(破壊個体)が採集されその分布が

2(134)

確認されたものである。林慶二郎氏著「日本蛭類解説」によれば「中国の山陽地方に於いては普通である」と記されているが岡山県に於いては小坂和彦氏の「岡山県産蛭類図録」によれば南部以南には産しないことになっており、平地としてはウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ等の山地性の種を産する倉敷市外畠田に於いても未だ発見されず、県南部には極めて稀なものであると思われる。吉備郡足守町附近にも前種及本種を産する由であるが詳細は不明である。

本山には本種や前種の如く山地性の種が見られるが、前記奥谷氏の記事にも記されているが、附近で得られる他のミドリシジミ族のものはアカシジミ、ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミ等で山地性のものは得られない。なお両種を含むミドリシジミ族を採集するのに向つては備前原駅からのコースよりも少し遠くて道も悪いが萩山駅下車のコースをとる方が収獲が多かろうと思う。

3. *Rapala arata lyranthina* BUTLER トラフシジミ

本年(1952)7月18日の採集で山頂附近の白花に飛来した本種の新鮮なる変型1頭が青堅孝昭氏によって採集された。これは以前にも採集された変型とは異なるものであるが、分布の広い種であるから、今後にも注意されたい。おそらく本県に於ける本種の南限の一つであろう。

4. *Gonepteryx mahaguru nipponica* VERITY スジボソヤマキチヨウ

5. *Daimio lathy's felderi* BUTLER ダイミョウセセリ

前種に就いては既に本誌Vol. 2 No. 11に記したので記録のみ再掲し他の記録も追加する。(いずれも本県に於ける南限地の一つと思われる。

スジボソヤマキチヨウ：2♂ 18-VII 広瀬義躬採集、1♀ 18-VII 青堅孝昭採集；2♂ 22-VII 広瀬義躬採集；1♀ 22-VII 広瀬正明日撃。

ダイミョウセセリ：1頭 18-VII 小堅洋採集；3頭 22-VII 広瀬義躬採集 3頭 22-VII 広瀬義躬図撃 (註) いずれも本年(1952)の記録

6. *Ypthima motschulsky* (BREMER et GREY) ウラナミジャノメ

本種の記録は本年6月22日清水慶子氏により1頭を採集されたもので、本誌Vol. 2, No. 7にも松井俊公氏が記されている。中国地方では決して珍しくないが、個体数少なく、その分布はやゝ局部的である。

其の他タコヒカブは中腹以高の地に現れるが、個体数少く、*Limenitis* は現在迄採集したものはすべてイナモンジの方でアサコは現れない。可能性は十分ある。以上短然と記したが、今後とも岡山方面の調査を続けたいと考えており、会員諸氏の御協力を御願ひする次第である。(28-XII. 1952稿)

★ 参考

奥谷祐一(1947):ニミ昆虫の分布、採集と飼育 9(8/9):167

林慶二郎(1951):日本蝶類解説:108(日新書院刊)

山坂和彦(1946):岡山県産蝶類図録、岡山博物同好会会報予報其ノ一、

江崎桃三・白水隆(1951):日本の蝶、新昆虫 4(9)臨時増刊:40-41

広瀬義躬(1952):岡山市金山より記録するスジボンヤマキチョウ

及ダイミョウセセリ、すずむし 2(11):129

児島半島タコラ山附近採集調査記録 1952年度 編集部

本年本会では児島半島昆虫相の究明に努力することが決定され、その一端として、タコラ山(別名山)附近のタコラ山附近を数回に亘り調査したので、ここに簡単に記録しておきたい。なおこの調査は今後も毎年継続して行われるものであるため、今後共会員諸氏の御協力を御願ひする次第である。

本1回調査:5月3日 参加者(以下順不同) 若林三郎、鎌平兼治、近藤光宏、友堅良一、青野孝昭、小堅洋、広瀬義躬、コース:彦崎駅-中村-用木-龍山-タコラ山-竜王山-清水-奥垣川-迫川-田加沢

彦崎駅より午前10時頃出発したが、途中道を迷って龍山に登り大分時間を費してようやくタコラ山麓の池附近に出る事が出来た。龍山は山麓附近は潤葉樹も多く植生であるが中腹からは笹原であり登山も困難である。この山ではオオゴミシ、ノムシモドキの1種、多くのコメツキムシの類が採られた。池附近は潤葉樹の類多く *Zephyrus* の豊産が予想せられ、又路上にはニフハンミョウが多い。カラスアゲハらしきものなど図写しつつタコラ山を登ると頂上(230m)附近に鳥居があり以後下降するに従いフローラは貧弱となりやがて開けた地帯に出てその間オサムシなど採り池に出る。池より竜王山-清水は路の両側は殆んど潤葉樹だがクヌギが主な様でして *Zephyrus* には期待出来ない。清水以後は段々と開けてきていたものは多い。本1回は時期も悪く別に珍しいものはとれなかったが大体の様子は知る事が出来た。

4(136)

オ2回調査

6月15日

参加者 小堅

洋、松井俊公、近藤

光宏、コース(オ1

回に略々同じ)

天候は余り悪ま

なかったが、採集

能好で多数の虫を

得た。この調査によ

って採集品につ

いては既に

本誌7月号に小堅氏によ

って数多く記されているのであるが、6月中旬のハルミの盛んなころ(オ1回に、又南の系(タナゴシロカミキリ)を多数得たことは山地(タナゴシロカミキリの地)でありかつ南方系のものの侵入が著しく極めて興味ある昆虫相が得られる。他に山地性のものが多く発見された。

オ3回調査 7月13日 参加者 広瀬義男、コース(オ2回と同じ)

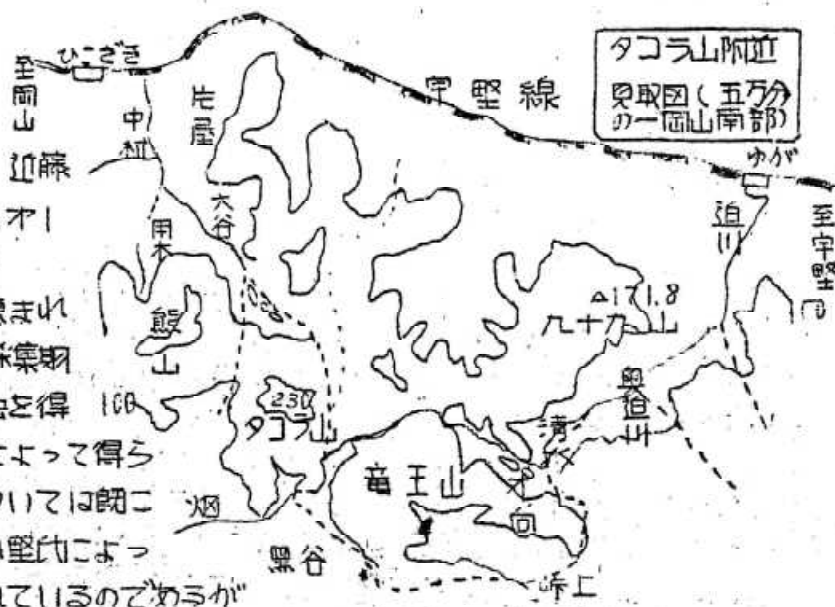
広瀬氏単独にて行われた。前回の調査に於いて期待はついていた Zephyrus はミドリシジミが採れて穴を窺う。路傍のメジロの花上には、おびただしく発生したベニシジミが群がり、何かじっとりと落ち着いた秋の日の如き感があった。

オ4回調査 10月9日 参加者 小川大治、小堅一、近藤光宏、小堅洋

コース：タコラ山は前回と同じ一畑一黒谷一上峠一オ向一清水以下同じ。この日は秋産卵のヒョウモン類、ヤワラギンシジミなどが多く乱舞していた。そして新コースに足どをばし、このコースが有望なることが確かめられた。又南方系のオオキンカメムシ、ナニワトンボが採集され、これはこの地が南方系要素を十分に持つことが確言されたのである。

以上沿岸にまとめて見たがそれ以外の記録は月号のあとに記されている。ともかく本年は調査の回数、人員も少くなくあったが南部の平凡な地域からこれだけのものと記録を得たことは嬉しい。兎島半島にはまた多くの未開拓な地(岸山307.3m、金甲山402.5m)があり今後の期待は大きい。

おことわり：本号「南方紀行」は筆者黒田祐一代が年末で御多忙のため、止むなく欠稿となりました。1月号(オ3巻)からは書かれるとうですから御期待を乞



本年のオサムシの記録

友 聖 良

今年(1952)の暑害
の間に集めたオサムシを小
型の式を編して全部中根
先生に同意して頂い
たましたのでその記
録を報告致します。



- 1) *Apotomopterus*
maiwasanus BATES
(マヤワンオサムシ)
A. japonicus
MUTSCHULSKY
f. *daisei* ?

岡山県上野郡高梁市牛山 VII-0, 1952 2頭 高梁孝昭氏採—タ4

〃 岡山県那岐郡山崎 VII-4, 1952 1頭 山崎幸次氏採—タ5

- 2) *A. yamaninus* BATES (ヤコンオサムシ)

岡山県倉敷市山崎 V-3, 1952 1頭 倉敷市山崎—タ4

〃 岡山市金山 VII-18, 1952 1頭 松井成公氏採—タ5

- 3) *A. japonicus* Mutschulsky (ヒメオサムシ)

f. *daisei* N. MS.

鳥取県伯耆大山 VII-13, 1952 1頭 千石孝昭氏採—タ4

註: 1) はどちらに属するか不明 3) f. *daisei* はヒメオサムシによく似
てがいずれの種に属するか固く不明

参考), 柳早良 Vol. 5 No. 5 足利市に属する討論会の中の中根先生と
の邦産オサムシの分布と変異(212)によると1) はこのいずれにしても中国地
方で記録されていない。なお安永瑞元氏によると那岐山でマヤワンオサムシの記
録があるらしい。素直ながら同意して下さった中根先生並びに標本を提供し
て下さった方々、小根先生に深く感謝致します。(212) 名目についての符号
は新録も Vol. 2 No. 11「日本の甲虫」による。但し1) はその限りでない。

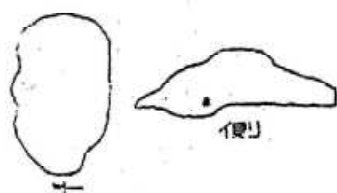
6 (138)

土巢に穴けるキゴシジガバチの越冬

能勢 房子・能勢 登美子

夏の終る頃から巣のへいの壁のところとところに土の塊(長さ4cm 幅3cm)がくっついていたが、(これが沢山に大きくなっていたのだろうか)さして気にも留めずにいた。先日竹の棒が当たってそれがぼろっと落ちてしまった。中から変なものが出て来たので何だろうかと思って調べてみた。ところがどうもキゴシジガバ

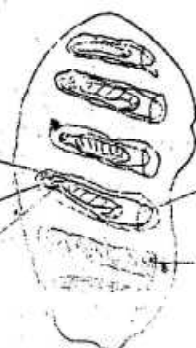
1. 巣の外形



この内部はきれいに
つや出しがしてある。
まわりの様なものを
薄く引張っている

バナ *Sceliphron tubifex* Latreille らしい。本種が土で巣を作ること思い出して、以下調べた事を記す。

2. 巣の内部



茶色のつやつやしたオブラートの様な皮。

小の蜂が一匹ミイラにな

黒茶色



中の幼虫がすいて見える位強い皮。

土の室から取り出したもの

春になったらどのようにして、この土の家の中から出て行くのだろうかと考えてみた。

よくこれだけの家を作ったものだと感心した。暖くなるを覚えておけばよかったのにも思っても仕方ない事だ。以上大体ですが観察した事を書いてみました。

(筆者能勢登美子さんは、深山采やまニヤ土。能勢房子さんは能勢さんのお母様です)

二 速 報

今年(1952)7月23日鳥取県日野郡溝口町、柳水原(太山中腹)の上(海拔850m位)にてキリシマミドリジミ1匹(完全個体)が田中蔵君により採集された。分布上興味があるので、詳細は中国昆虫学会会報次号に写真付きで発表の予定です(ルル)

昭和52年の会回顧

川口堅三

初日の出のその日、黒田のラミーカミキリ幼虫の採集から始った本年の活動は真に因縁しいものがあった。昨年の12月26日大原農研研究所昆虫室で開催された昆虫談話会の席上計画され誌上でもとやかく向題になっていた児島半島の調査も不十分ではあったが、或る程度の成果を収め得たし、今後の調査の基となるには全く充分であつたろう。さて、2月には本会中堅会員で、我々も他の御世話になつていた大原農研の中級専攻氏が鎌倉、御嶽郷にならねると云う旨があり、幸甚に御名残惜しい次オであつた。同じくこの頃カミキリの黒田町一帯には米害を岡に蔓延路上をはるかパキスタンへと南下を続けられていたのである。1又3月1日には近藤光宏氏宅で昆虫談話会が開催され、この日在倉の中学生の家に在る迄の大部の人がつめかけられ、飼育、採集計画、採集熱に花を咲かせた。4月初頭、苦心成つて年刊の研究発表機関誌として計画された会報のNo. 1が発行された。この頃「すすもし」の発行は極めて順調で毎月我々を退屈させなかつた。

上手の端にベニシジミが舞う頃になると、盛んにネットの姿が山壁を訪ねるようになった。児島半島のタコラ山へ新採集地を求めての調査は5月3日を皮切—Zephyrus—の季節の過ぎるに続いた。この向会としての採集会が6月15日に行われた。又研究発表の催として6月1日岡山博物同好会主催の才四回学術博物コンクールが大原農研で盛大に行はれ、本会からも2・3のオの参加御発表があつて甚だ有意義であつたし、研究に対する志気大いに上り、学究徒に対するこの催の役割は大きかつた。やがてすさまじい蟬の鳴声が山々にこだまし始めると、終極にも分かれて伯耆大山へ、那岐山へと各地に派状的に遠征が開始された。6月に本会初の女性会員が3名も生まれたのは特筆すべきで、凶然採集記もなごやかであり、又曝であつた。大山では降雨に見舞ひ不成功に終わった組もあった。しかしながらもいつもの事であるが、山の家で各地方の採集家の方にお目にかゝる事、出来、知見と交換する事が出来るのは非常に嬉しい。安東瑞夫氏に御案内を願つての那岐山への採集は、やゝ季節遅かりし感があつたが、採集品には個体数こそ少いが目新しいもの多く、又他のおしる事柄に於いてかなりの収穫をあげ得たと思つている。

この向同好会員の方々に比較的近郊の山々への活躍も甚だ活発で、6月8日の採集会は残念ながら雨天中止となつたが、グループ単位の採集が臥牛山、念山、タコラ山へとなかなか賑かで、これら夏の記録は既に「おとしろみ」に大抵収め

8.140)

並べている。特に金山附近の昆虫相が変遷をきたり、それに相対的になっていることが
見られた。以前まで観察があった。一帯は中絶近郊の自然は勿論、四方に至る迄
風景に変わっていた。タコラ山へは更に秋10月9日に今一度本年最後の調査を
グル・アール位で試み、新好適コースとも発見を得た。それに特筆すべきは11月
15日、中絶安富地区、河庄和雄氏と初めとする農学部の方々によって奥尾富士と
呼ばれる早稲島東部に聳る峻峯、金甲山(402.5 m)の調査が行われたこ
とで、特に山頂附近の闊葉樹林にかなり物産であることが知られたのである。
河庄氏は当日そこでアサギマダラ1個体を捕獲されている。この山に対する我々
の来年への期待は極めて大きい。

本年はユウ・ハナ、ルナで記録更新、或は星がどろ生息記録がますます盛んにな
って来たように、かなりのことに因する発表が表上でなされ生態学的分野への進
出が著しいに思ふ。

今年の「すずむし」はどうだったろう？ 昨年に比べて比較的快調の足並で進んで来たように思える。編集陣は広瀬喜博君を前に加えて強化をはかり、6月に丁司孝雄の編集になる。またこの月、特装号を出す No. 8からはイキマダさんから帰られた黒田先生の興味ある“南方紀行”が始まり毎月我々を楽しませている。10月1日から、今までの殻を破って表紙がすべて白一色した。これもバリエーションの一つで、カラー・モノクロに区別が明せ、趣向、もう少しながたニムト曼珠であって決して読者ではないであろう。

11月上旬にはお心付までで、三田山王さま「御婚儀がめでたく取柄かれ、性も活発と成って、王女ハゾウムハ御研究もごいに新しきオーパスを踏出される事と
なぐに。……」作は、今更事者所、同様に廻り。11月23日に森氏宅で緊急議事會が開かれ、会報に発表されるようにまつり議決可決されたのである。

・こうやって慰出して見ると全くすばらしい！年向であったが、この長い時間と彼女はかなり効果的に理めることが出来たし、不愉快な空白の出来の要を要す様なことはほとんどなかった喜んでよい。クリスマスも目の前である。虫談忘年会でもマアて大目に来年の研究のホープを語り合って慰たいものである。

(162 頁 162)





タコラ山にナニフトンボ

1952年10月9日、同好の小川、
松井 友堅、近藤の諸君と共に秋の
タコラ山

に、その時、かなり雨雲に近くな
ったあたりで *Sympetrum gra-*
cile OGUMA ナニフトンボを1個
体発見し直ちに採集した。本種は既
に県東北部に於いては安東瑞天氏に
より、かなりその発生を先見されて
おり（しかしその発生は普遍的では
なく数ヶ所の多産地があるとのこと）
新昆虫図鑑にも本県は記録されてい
るものであるが、県南部にタコラ山
付近での記録は元来より欠けてゐる
ので、ここに報告しておく。尙食蚊
近部での記録は未だない。*

（小 堅 平）

*編者註、堅平安基雄、昆虫学雑誌
Vol. 1 No. 1 (1915)、兵谷

9 (141)

禎一、採集と飼育 Vol. 9 No 8/9
(1947)、(いずれも岡山よりの
本種の記録を報じ、特に後者は岡山
市備加山中麓の池にてアキアカネと
混じりて下旬より10月上旬迄多産す
る由。

Oidra bowringi BALY キハリムシの新産地

本種は元来本邦産ではなく渡来種
であると考えられる。(ENTOMOL
OGICAL INVESTIGATION Vol.
II, No. 1 p. 28, 西村公夫、原色
千種昆虫図譜……(三省堂) 参照)
1952年8月17日兵庫県豊前郡三

筆者 標本保存 *aug.* 31, 1952 記

(松井 俊 公)

岡山県下に於ける ラミーカミキリの産地

岡山県の南部地域は北部に於いて
山地性の種を多産するのに対して、
近年特に南方系のものの侵入が著し
い。すなわちタカサゴシロカミキリ
ネオキンカメムシ、ネジロハキリバ
シ、*etc.* 等に限らない程であるがそ
の中に近年なか附近に多産を報ぜら
れ注目されていゝラミーカミキリ
Paraglenea fortunei SAUNDERS
553がある。本種は或は本
州の各地に侵入してあり、台湾に於

10 (142)

いてはラミーを食害する著名な害虫として普通である。本県下では大体北緯34°50'内外附近に侵入して居りその産地を列举すると次の如くである。(大体発見順)

1) 神津郡長田村 VIII-8. 1944

小泉富治氏採集

2) 上野郡成羽町 2 ex. VII-9

1947 佐藤虎雄氏採集

(大原農研昆虫室所蔵)

3) 上野郡高梁町臥牛山 1 ex.

V-15. 1943 芳野邦雄氏採集

集. 1 ex VII-6. 1952

清水慶子氏採集

吉備郡足守町 岡野幹男氏による

の産地が調査され 1959 年より発見

6) 倉敷市酒津水門 1951 年より

発見

以上大体6つの産地を挙げる事が出来た。1)2) は「天竜昆虫標本解説」p.10 岡山博物館同好会(1948)による。岡山県下でラミーと盛んに栽培している所がある様に新聞紙上等で照らけるし、又本種の食害の一つとして県下の各地に普遍的な分布を示して発生しているヤブマオが発見され(三穂 Vol. 2 No. 11 参照)更にヤブマオ属(*Boellmeria*)の各種と食害とすべき事が予想されればその分布は今後益々拡大して行くもの

のと思う。ラミーは最近特用作物として注目を浴びているもので、その栽培が盛んになれば自然本種も注意されるようになると思われる。

不審ながら種々御指示いただいた小壁洋氏に厚く御礼申し上げる。

(2/VIII. 52 記) (広瀬義躬)

本年枋原附近にて採集した 天牛類に就いて

本年私が採集した天牛が全部整理出来たのでその中新しい枋原附近のものについて報告する。大体海拔370~950mの間で採集したものでその間の桑、薪、葉の花等で得たものである。今年の最高気温は28℃(倉敷市)で、最低気温は10℃(上方で4℃(千軒峠、大山頂上と同様)位であった。(学名省略)

桑……12/VIII トラフカミキリ3含、ミボシカミキリ1含、ムネホラシロカミリ1含

薪(コナラ、葉が主)……27/VI

キスジトラカミキリ 1 ミドリカミキリ 2. クロトラカミキリ, 5
シラケトラカミキリ 1.

花(桑、葉その他)……13/VIII ハナカミキリ 1. 21/VII ヨツスジハナカミキリ 5. 6/VIII “ 1. 葉その他……25/V ヒメスギカミキリ 1. 20/VII ヨツボシカミキリ

すずむしを1匹と、10日に山陰へい
がこの環のたぐいの環を、5匹
くれましたが、私共が（1匹と）
9匹（日のぬからない）は残置です
が（旬前）玉田市、真崎の自宅（真崎
のすぐ近くに止っているもの）を
しました。全然新しい個体でおそろ
く羽化したばかりのものでしょう。

12(44)

1952 11.17 記 (井手千代子)

イカリモンガの訪花

1952 年 8 月 20 日 兵庫県京都
三方利園樹種に採集に行った際、山
すずめのアザミに 1 頭のイカリモンガ
が飞来し、吸蜜していたので採集し
た。なお当日は曇りで丁度夕立がし
た後であった。時刻は十二時頃 以
上参考までに記しました。

(松村俊一)

ナヨウの訪花二例

1952 年 10 月 8 日 岡山市津島岡
山、ナミジヤノメの丘に於けるナヨウ
の訪花を観察したので報告する。

ナヨウシロナヨウ → センダン
グサ

センタングサ

(山堅 洋)

ウラキンシジミの食樹

について

本年 7 月 5 日 (晴 気温 30°C) 神
戸市中央区長谷地附近 (海拔 400m
位) 森林植物園事務所横のトネリコ
畑にてシロコブゾウムシを採集し、
しばらく観察してから集めて採集し
た。本個体は産卵していたが、産卵
植物が従来知られていないものであ
った。産卵は確認したが、産卵アタ
チは、シロコブゾウムシを産卵として
いるが、産卵アタチは、シロコブゾ
ウシを産卵としておく。

トネリコ シロコブゾウムシ

・ ・ ・ 種名は植物園のラベルによる。

(植村公夫)

ミヤマナヤハバネセセリ

の交尾に就いて

8 月 6 日、兵庫県小段ヶ峯、912.7
m) の梁段と西段との間の上段 (65
0 m 位) にて本種の交尾を発見。数
回飛翔させてみた所何れも一歩 + 合
で飛翔した。当日は曇り、風力
は 2 曇り時の雨又は雷雨 気温
は 18°C であった。この日小段ヶ峯
頂上には幾らかのヒメヒカゲ (未だ
新しいのもあった)。ナミジヤノメ
が高山に於けるタカネヒカゲのよう
な現象を呈していた。で梁段一帯に

・ ・ ・ ナミジヤノメの丘に於けるナヨウの訪花を観察したので報告する。

この日観察又は採集した種は前記の
他、ナミアゲハ、トラフシジミ、コ
ミスジ、フタスジチョウ、ツノコガ
ネ、ダイコクコガネ、ヨッスジハ
カミキリ、ドロノキムシ、オオゾ
ウムシ、シロコブゾウムシ、ヒメマ
ユタテアガサ。(西村公夫)

いぶどう畠のこがね虫

30/8(2) ~ 1/9 まで 3 日間
茨城県鹿嶋市のいぶどう畠で

・ ・ ・ ナミジヤノメの丘に於けるナヨウの訪花を観察したので報告する。
もののこがね虫について少し調べて
見た。始めの 2 日間にはあまり
入った白で個体数が非常に少ない。

—— 次頁下段へ続く ——

一虫屋冬の課題

私の思っていることは主としてはの事である。虫屋仲間で、実業は生態を主として研究する人が多く、内、虫屋は蒐集家が多くて生態面とする人が比較的少ないと言われているそうである。蒐集家は一面が復元にも意味する機である。これはつづいてみたい事柄である。汚名(?)回復のためだけでなく生態的な面をも研究される様望むものである。

秋も深まって虫も姿を消してしまつて何んだか気が抜けた様な感じが無いでもないが、私は冬になれば出来な^い蝶の採卵を細々ながら始めているので参考までに記してみる。

まず林の選定であるが、乾燥性の種（アカシジミ属 ミズイロ、オオミドリ）では陽あたりのよい雑木林の切畑、道端等のコナラ、ミズナラ、クヌギ等の割合の高い枝で、オオミドリは枝の又に最も多く、やや太い枝（全1~3cm位）の凹所、幹の表面の割目等、である。オオミドリでは養谷性の種であるから谷川沿いの低い枝（地上3~6cm）に多い。特に林が大きい場合は種により高い枝に多いこともある。産卵場所を図示すると下図の様な種々の場合がある。



多くは一卵産であるが時には2-3卵から数卵りこともあり、産卵樹木、場所、数等は種類によって夫々異なる。新能虫VOL. 5 No. 1, 2, 3に林吉氏が記載されていますから参照されたい。以上ごちへごちへであるがその要領を偏して述べた。さういふ。10/81 52 記 (松虫)

—前頁より—

即ちぶどうのふさにシラホシハナム
グリ5匹、ドウガネブイブイ3匹+
シラホシハナムグリ7.5箱分でコガね虫はふい
さの奥にある予防剤りとどこかぬため
らしい)ーで木には見たてでは分ら
ず若い木を2本やすってにメコガネ
2匹を得た。最後の1日は適りすぐ

ほとり、言で割合多くい。即ち、
 さにミラホシハナムグリ11匹、コハ
 ナムグリ2匹、ドウガネブイブイ5
 匹一ぶどう4箱分であった。なま
 木については調べていないが多分多
 くいであろう。こがね虫の予防に
 は「サンエン」をやってどうで「ニツリ」
 は同じ量、同じ時に「肥料」をやって
 どうです。(清水 慶子)

三本会寄贈同好会誌紹介三

INSECTS MAGAZINE Vol. 18 (創刊三週年

(X/-/952) 東京都大田区新井宿3-1362

(記念号

(主内容) 西川協一が少年昆虫会発行

・磐瀬太郎 東京都下で採った蝶——(フジミドリシジミ、ミヤマカラマツアブ

・小林洋:スジベニコケガについて(予報)

・青木淳一:東京の吉丁虫あれこれ

・峰岸透:水棲昆虫について

本会が本年11月で創刊三週年を迎えた由 御慶賀のことと併に常々の同好会界、中ではよく続いたものである。表紙はなかなか独創的、昆虫の死骸らしきものが黒々と複写重さになっている図案は立体派のピカソ(?)風たりと思わせ異色。まず巻頭に西川氏の三週年の言葉があって、次に磐瀬太郎氏が学生時代の思い出を中心に東京の蝶について筆をとってあられる。小林洋氏の「スジベニコケガ」は貴重な資料である。本会では協同研究としてモンキチョウの越冬態調査を盛んに呼びかけているが、今からでもおそくないから会員諸氏の向でも協力してあげて下さい。裏表紙に既刊総目次を附す。

大和郡山草木虫癩の会会報 Vol. 5 Nos. 27-28

(VI-/952) 奈良県生駒郡郡山町南部山565

(主内容) 今立源太良が大和郡山草木虫癩の会発行

今立哲男:奈良県の天牛類(2)紀和県戎護摩ノ壇山附近の天牛類

今立源太良:奈良県のHOPLIINAE, VALGINAE, 及びDYNASTI
NAE

笠原純子:鈴虫の一生

木下昭夫:甘藷大根の根色遺伝について

雑誌は無綴16頁、奈良県のフオーナに關するものが多い。堅平安芸雄氏が松虫に書かした「地方誌のあり方」の一文によるものか、「奈良県に關係のない地方的記事は掲載しない」という立前をとっている。創立5周年記念興大和調査計画に大いに期待したい。

虫界速報 No. 24, 25 (X. X-/952)

東京都大田区入新井四丁目112 昆虫研究会発行

昨年3月以来発行が中止になっていたが、主筆の岡垣氏の病勢が著明に上り、向かって早速復刊。例、1冊と1冊に出ている。相変わらずユニークな内容で、りがアマチュアの魅力だが、読者のアイヤ球が残りはどうしたのか？ともかく全行の総読することを知る。25号虫マクラブの巻頭紙の巻頭そのものズバリである。

島根県石見地方産蝶類採集図録 岡田雅裕氏著

(XV-1952) 浜田市上黒川市営住宅2区25号 浜田昆虫同好会発行

本図録は浜田市、西部中国山脈、三瓶山等を中心とした、石見地方産蝶類の過去5年間に亘る分布調査を岡田雅裕氏の手でまとめられたもので全26頁。地図一葉。内容は蝶類採集図録、今後採集可能種、島根県産蝶類文献図録、雅裕氏の4部から成る。図録に収録された種数は102種と数えその中には、ナガサキアブハ(少)、イシガサキ(少)、ハマシミドリ(普)、ウスイロヒョウモンモドキ(普)、ウラジヤノメ(稀)、コノマナエウ(少)等の興味ある種を多く含んでいる。又今後採集可能種としては17種を挙げている。印刷は鮮明でよく出来ているが、特殊の種類の就いて少し詳しい解説が欲しかった。いずれにせよ同好者が多く、未だ知られてない土地が多い中国地方の一部のまとまっ

と考察するに於いて参考にすべき点が多くあると思う。(24.XI.52 受領)

(編集部より)

(以上四龍紹介文書、Y.H.)

寄贈同好会誌貸出しについては今編集部の方で貸出規約を作製していただきます(寄贈誌の録追加：上に記したものと高島春雄先生より御送りいただきありがとうございました新書多足菜の模範Ⅱ他2編)

訂正

☆シルヴィアシジミの産地金屋谷は日光村ではなく、湯田町である。

又岡垣氏の記録の後見村のものは1944年、又1942年に平林敏氏の採集記録がある。(赤松にて7.231号)。更に同所附近で1948年7月吉坂道雄氏が2,3頭を採集している。しかし前者は疑しく、私も確信出来ないから岡垣、竹内西氏のものに最初の記録と云う事にしておく。(19.72)

☆5月号西村公夫氏の報文題目中 *Zizina otis sylvia* は *alope* のミノムズだから2月号に氏が記された如く *alope* が正しい。7月号p.72石上より、行ムラサキシジミはムラサキツバメに、8月号p.83上より14行西昆虫学雑誌は省をけずる、同p.91上より11行バチマリはマシメとする。9月号p.35下より14行風景は風景に、右より14行清歌は清歌に、p.36下より14行御提供は御提供に、

16(148)

p.101 上より6行、7行参考ここに 参考位にここに、に 同の上より、3行
16面は16行とそれぞれ訂正 (編集部)

新 入 会 員 (1952年12月)

52. 安達正人 広島県沼隈郡瀬戸村 岡山大学農学部3年

— 会 だ よ り —

前号にも記しましたが去る11月23日近
頃自宅で開催された緊急編集員会議で会
議の決まりが決議されました。そしてこ
れに対する御意見を求めたのですが、
まだ御意見と御寄せ下さる方がありま
せん。で もし消去することになります
と先に会費徴収を行った意味がなくな
りますので、それに対しては「すむし
」で全容するようお願いしたいと思いま
す。編集部 安達正人

40頁のものも出したと思います。
とにかく本会所有のガリ盤をなく留り
まわっているのでは、お話しになりま
せん。会費獲得に御協力下さる様御願
い致します。なおこの会議で発表会は
来春今号に延期することに決定しまし
た。(編集部)

◇原稿、会員募集◇ 毎月15円

原稿を梨山出して下さい。なるべく原
稿用紙使用のこと。編集上甚だしい支

会 員 諸 氏 に 御 協 力 願 います。

①来春も又蝶類の発現調査を行いたい
と思います。特にモンシロチョウの初
全日の調査を会員共同研究にて行いた
いと思います。進んで又詳細は誌上に
発表致します。なお本年の蝶発現調査
は本号に発表の予定でしたが、私が何
分この間は予定していたので整理出来ず
3乃至4月号(Vol.3)に発表の予定
とさせていただきます。

助として依頼したいと思います、御協
力下さい。(広瀬義躬)

編 集 後 記

今号はもう全くノビてしまいましたが、
大変おくれでしまったことをお詫言
い致します。虫の動きが速いので、
取り急ぎ、会費徴収の成績を報告しま
す。小室には御寄りの無理を申し込
み、11月にも長文の回を寄せてもら
いました。下月号の回を御新し
い号可よう御新し致します。(Y.H)

障をきたしますか。締切は毎月5日
です、種類は問いません。

すむしバックナンバー分譲 Vol.1
No.10~11 Vol.2 No.1~11 各15円

すむし オ2巻 12号

昭和27年12月31日 印刷

昭和27年12月31日 発行

編集及び印刷 広瀬義躬

発行所 倉敷市住吉町大原農業
研究所内

倉敷昆虫同好会